

テーマ：高等部を卒業した後に必要な力

今回は「視覚障がいのある人にとっての通学の課題」についてお話ししたいと思います。
高等部を卒業して大学等に進学するとき、最初に大きな壁になるのが「通学」です。特に、電車やバスといった公共交通機関を使った移動は、大きな課題になります。

視覚に障がいのある方にとって、初めて行く場所や慣れていない環境はとても苦手に感じるものです。大学に進学すると、都市部の大きな駅を利用する機会が増えると思います。しかし、ご存じのとおり、東京の主要駅のような場所は非常に複雑で、人の流れは速く、音は四方八方から重なって聞こえてきます。そうした中で、自分が今どこにいるのか、どちらに進めばいいのかを正確に把握するのは、決して簡単なことではありません。実際に迷ってしまい、出口にたどり着けず、不安を抱えることも少なくありません。

かつては駅員さんの数も多く、困ったときにはすぐに声をかけて助けてもらうことができました。しかし近年は人員削減の影響からか、駅員さんを見かける機会が減っています。以前はあちこちにあった「みどりの窓口」も縮小され、すぐに頼れる環境ではなくなってきています。

では、どうすればいいのか。ここで大切になるのが、自分の力で乗り切る力、そして周囲の人に適切に助けを求める力です。さらに、駅にある設備や制度を知り、それを活用する知識も欠かせません。

例えば、進学前に実際の通学ルートを練習しておくことです。電車の乗り換えや改札の場所、エレベーターや階段の位置を事前に確認しておくだけで、不安やトラブルを大きく減らすことができます。

また、駅構内には点字ブロックや点字案内が整備されています。あまり知られていないのですが、ホームドアの両端（図1）や電車のドアに貼られた点字表示（図2）も役立ちます。これらを読むことで、自分が電車内のどの位置にいるのかがわかり、降りたあとにホームで左右どちらへ進めばよいかを判断しやすくなります。

そうした案内がない場合は、ホーム上でまわりの人の流れを頼りに歩くほかならず、不安が残ります。しかし、事前にこうした情報を知っておけば、駅のホームで友人と待ち合わせをする場合にも、「今ホームのこの位置にいるよ」と正確に伝えられ、お互いの居場所を正確に伝え合うことができ、スムーズなコミュニケーションにつながります。

さらに「乗車介助」という制度も重要です。改札口で駅員さんに申し出れば、電車への乗車から降車までサポートしてもらえます。大きな駅での乗り換えでも、次の路線の乗り場まで案内してくれるのです。たとえばJRから東京メトロに乗り換える場合、一度改札を出る必要があっても、同じ駅構内であれば目的の改札まで案内してもらえます。ただし、完全に駅の外に出て地上を歩くような乗り換えは対象外になることもあるので、事前に確認しておくことが大切です。

こうして見ていくと、視覚障がいのある人が安心して学校生活を送るためには、日常の通学の中で「状況を判断する力」「人に助けを求める力」、そして「設備や制度を活用する知識」が欠かせないことが分かります。そして何よりも大切なのは、これらの力を中学校や高校にいるうちから少しずつ身に付けておくことです。そうすることで、卒業後の新しい生活を、より安心して、より自信をもってスタートできます。

(図1) ホームドアにある点字



※イメージ図

(図2) 電車内のドアにある点字



※イメージ図